

- タウン情報 -

きくがわ

2021

10

Vol. 177

食欲の秋

※ 今年も地域の方に、
表紙用のお弁当を作って
いただきました♪



〈 住みよい菊川をつくる会へのご寄付のお礼 〉

この度は住みよい菊川をつくる会にご寄付いただきありがとうございます。いただいたご寄付につきましては、当会の目的である、「お互いの協力と信頼を高めあいながら心のふれあう文化的で明るく住みよい菊川をつくる」ことに活用させていただきます。

(一般寄付)

山本 美紀子 様

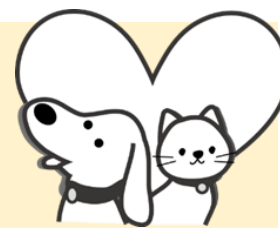
(8/8 花火打上の為の寄付)

医療法人 田中医院 グループホーム 万年青 様

わが家のペット

大 集 合

.....
菊川のかわいいペットを集めました♪



● ティファちゃん (1歳)

性 別 = メス

コメント = キュートな見た目と裏腹にじゃじゃ馬娘です。早く大人な女の子になってね！

※ 掲載可能な写真データがありましたら、ひと言コメントを添えて、菊川市民センターへメールをください。常時募集中です♪

数字で見る菊川 (8月末の人口等)

世帯 3,301 世帯 / 人口 7,825 人 / 男 3,810 人 / 女 4,015 人

市民センターで

夏休み子ども教室を開催

今年も菊川市民センター主催で、菊川小学校児童を対象とした夏休み子ども教室が開催されました。毎年恒例の菊川寺子屋（小学生の自主学習の場として市民センターを開放）は昨年度に引き続き非開催とし、「陶芸教室」と「木工教室」の2つの教室が開かれました。

日ごろ菊川市民センターで活動している「菊川陶芸教室」の方々に陶芸教室の講師を、日ごろ小畑小学校で活動している「小畑木工クラブ」の方々が木工教室の講師を務められていました。地元の方々が講師ということもあり、子ども達はすぐに緊張が解け、最初から最後まで楽しく学んでいました。



● 今回は菊川地区の支所・市民センターの方に着任のあいさつをしていただきました。



小畑市民センター長 吉光 真正

昨年4月より地元の小畑市民センター長に就任しました。少子高齢化真っ只中の小畑ですが、地域の方々のお力をお借りしながら、少しでも楽しい地域になるように頑張りたいと思っています。よろしくお願いします。

小畑市民センター主事 山本 英俊

4月より小畑市民センターの主事としてお世話になってます。同じ菊川（上村）から通っていますが、知らないことが沢山あり、いろいろ勉強になります。1日も早くコロナが収束し、これから地域の皆様と一緒に活動させていただき、少しでもお役に立てればと思っています。よろしくお願いします。



菊川支所長 梅本 幸治

4月1日付けで健康づくり推進課より菊川支所に異動してまいりました。役所に入って初めての支所勤務です。菊川地区のことは、まだまだ勉強中ですが、1日でも早く地域に溶け込んでいけるよう心掛けていきますので、よろしくお願いします。



菊川支所職員 山本 尚孝

昨年4月より再任用職員として主に会計業務の担当をさせていただいております。5年生まで富岡小学校に通学したこともあり、菊川地区はとても懐かしく親しみを感じております。皆様のお役に立てるよう、精一杯頑張りたいと思いますので、どうぞよろしくお願いします。



菊川小学校 開校 50 周年！



令和3年度（2021年度）をもって、菊川小学校は開校50周年を迎えました。これを記念し、菊川小学校とPTAが一丸となって、航空写真撮影、日時計や横断幕の作製、運動会でのセレモニー、記念誌の発行（3月完成予定）を実行されています。記念誌は、菊川市民センター等の施設にも進呈予定で、完成した暁には各施設を通じて是非地域の皆さんにご覧いただきたいとのことでした。写真はドローンによる航空写真撮影時の様子です。



菊川 深訪

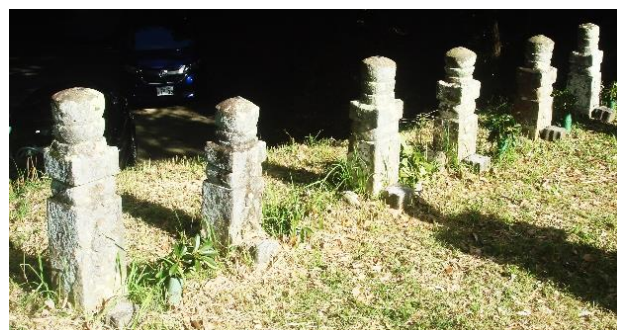
第46回 江戸時代の小畑村

元号もかわり、江戸時代は遙か昔になり、知るには難しい壁がある。記録を読むにしても、印刷技術がなかったため、草書体である「古文書」となっている。でも、山口県の場合、江戸時代の後期に藩主の命で各村毎に、庄屋達が代官に報告した国勢調査や経済白書の様な資料「防長風土注進案」がある。その記録は山口県文書館（主に毛利家寄贈）で解読され、現在は各図書館にあるので、利用が可能である。この菊川地域では、小畑村が萩藩の管轄であった。小畑村内の花河原は古くは「鼻瓦」と書かれ、この地で瓦を造り、富田瓦が多い中で、この村の瓦は良質の為、花瓦とも言われ、花は美称である。瓦師が一軒あって、生産量は一万枚と書かれている。又、花河原には「お姫塚」がある。そこには、戦国時代に落城する若山城を見ながら亡くなった陶氏の姫が祀られている。

その「注進案」では、村の境に関する事、気候風土と共に種付けの時期、米蔵の場所なども書かれ、米蔵は羽山と花河原に各一軒があった。又、米・紙の港出荷用の蔵は富田の平野にあり、中野川上村、蒔地（あどおじ）村や鹿野大汐村とも共有していた。物産に関しては、十七品目の生産高が書かれ、米四百六拾

七石（石…約百八拾リットル）、田麦百四拾七石、畠麦百五拾二石、大豆七拾二石、小豆・ササゲ二拾四石、ソバ八拾石等である。他の資料では関ヶ原の戦い前小畑村の総石高は、二拾から三拾石程度であったらしいので、毛利家は関ヶ原で負けた後、多くの家臣団を抱え、山間部を開拓し、小畑村の石高を約二十倍にした。小畑村は当初阿曾沼氏（あそぬまし…広島から来た武将）の給領地であったが、その後は総て「蔵入」（萩本藩の収入）になり、萩藩の財源に貢献し続けた。

記録の報告者は、庄屋と畔頭（くろがしら）である。畔頭は庄屋の相談役となり、年貢の収納、検見、戸籍その他の民政用務にあたった。



小畑（小庄下）の「五輪塔型六地藏」（戦国時代）

8月8日(日)に菊川地区で花火打ち上げ！

市内26ヶ所で花火を打ち上げる「がんばろう周南！ Cheer up！花火2021」という事業が展開され、菊川地区では「住みよい菊川をつくる会」主催で、菊川中学校グラウンドから花火約70発を打ち上げました。

打ち上げ当日の20時には、台風の接近も懸念され、開催できるか不安もありました。しかし結果は小雨こそ降れども風はなく、無事に花火を打ち上げることができました。当日は有事の際に備え、菊川地区の消防団「消防団 第14分団」の方々に来ていただき、交通整理や、打ち上げ後のゴミ回収にご協力いただきました。

